

変形性股関節症 ～保存的治療～

【変形性股関節症とは】

関節軟骨が変性し骨の変形・破壊が起こり、関節機能がしだいに低下し、消失していくことで痛み・可動域制限等を引き起こし、歩行などの日常生活に障害をきたします。発症すると加齢とともに徐々に進行していきます。

本症は基礎疾患や原因のない一次性股関節症と、外傷や疾病によって起こる二次性股関節症に分けられます。先天性股関節脱臼や臼蓋形成不全などに続発する二次性のものが多く、女性に多く発症します。

【病期】

前股関節症:レントゲン上には現れないが、疲労感・軽い痛みがある

「初期股関節症」



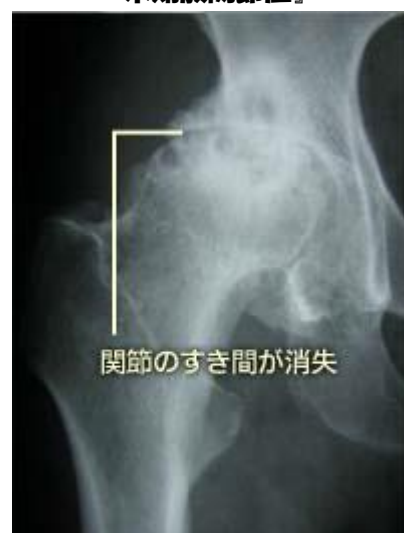
骨が硬くない始めるが、
関節の間隙は保たれる

「進行期股関節症」



関節の間隙が一部消失、
骨棘や骨のう胞などの変形出現

「末期股関節症」



関節の間隙が消失

【症状】

初期は立ち上がりや歩き始めに股関節前面などに痛みを生じるが、進行とともに増悪し、夜間痛(夜寝ていても痛む)を生じてくる。日常生活においては、足の爪切り、靴下の着脱、和式トイレや正座など、股関節の可動域制限による障害を生じ、さらに増悪すると手すりや杖が必要となる。

【治療(保存的)】

○薬の服用:炎症症状の緩和、痛みの軽減を行う。

○体重コントロール:股関節に対する荷重ストレスをコントロールする。

○履物の調整:クッション性の高いものを選択する。足首がしっかりするように足底板を導入することで股関節に対する荷重ストレスを調整する。

○杖の使用:股関節に対する荷重ストレスを分散させる。

○理学療法:股関節周囲の柔軟性の確保、筋肉のバランス調整、生活指導を行うことで股関節症の進行を遅らせる。



変形性股関節症は生まれ持った関節の構造の影響もありますが、体重の影響、生活習慣により関節に対して偏った荷重ストレスが継続されることで関節内の組織が変形し痛みを伴うようになってきます。変形に対しては早めの対処が重要であり、適切な治療が行われれば股関節症の進行を遅らせていくことも可能だと考えられています。少しでも違和感がある場合は医療機関を受診し、早期の対応をおすすめします。